

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
現代社会と福祉 I Contemporary society and welfare		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修 社会福祉士主任任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会保障 I、社会理論と社会システム、社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山田 昇	講義棟2F	火・水・木9:00～16:00 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
現代社会における政治・経済・財政・社会・少子高齢社会などの現状を理解し、国民生活における社会保障・福祉の機能と役割及びその現状と課題を理解する。また、その前提として社会福祉の理念や意義を学ぶと共に、欧米・我が国における歴史を概観し、これらに対応する社会保障・福祉関係各法律及び施策・制度の理解を深める。				
授業の目標				
①現代社会の現象(政治・経済・財政・社会環境など)と国民生活との関わりを理解できるようにする。 ②現代社会の国民生活と社会保障・福祉の意義と役割について理解できるようにする。 ③社会福祉の思想・原理・歴史を概観し、その変遷を理解できるようにする。 ④現代社会における国民の生活福祉問題・ニーズと課題について理解できるようにする。				
授業の方法				
主に講義形式で進める。政治・経済・社会・社会保障(福祉)の新聞報道・トピックスなど教材として活用する。また、レポート作成を通して、社会保障・福祉に関する文章作成能力を高める。				
学習の成果(学習成果)				
①国・地方自治体の政治・経済・社会施策と社会保障・福祉政策の関連を理解し、説明することができる。 ②国民生活と社会保障・福祉との関連性を理解し、説明することができる。 ③社会福祉の基本理念・ニーズ理解とそれに対応する社会福祉従事者としての基本的な学習課題を理解し、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の進め方、留意事項、成績評価等) 現代社会の様相と社会保障、福祉の概要と変化について			
第2回目	現代社会の国民生活と政策① 政治・財政・労働・社会政策について			
第3回目	現代社会の国民生活と政策② 少子・高齢社会政策について			
第4回目	社会保障・福祉政策の展開① 福祉政策の主体と対象について			
第5回目	社会保障・福祉政策の展開② 福祉政策の原理と理論について			
第6回目	福祉の思想と原理① 人権と福祉・ノーマライゼーション思想の具現化について			

第7回目	福祉の思想と原理② 社会的排除の構造と人権について		
第8回目	社会保障・福祉の発達過程① 前近代社会と社会保障・福祉について レポート作成「現代社会における社会保障・福祉の機能について」※提出は第9回目の授業日		
第9回目	社会保障・福祉の発達過程② 近代社会と社会保障・福祉について		
第10回目	社会保障・福祉の発達過程③ 現代社会と社会保障・福祉について		
第11回目	社会保障・福祉政策と社会資源① 福祉ニーズと供給システムについて		
第12回目	社会保障・福祉政策と社会資源② 市民参加と地域社会福祉の推進について		
第13回目	福祉政策の課題と対応① 社会問題と福祉政策・現代的課題について		
第14回目	福祉政策の課題と対応② 福祉政策の国際動向と日本の福祉政策について		
第15回目	現代社会における福祉政策の課題と展望 授業のまとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート		10%	第1回～第8回までの講義内容に関するレポートとする。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿って、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書			
小テスト			
試験		70%	論述、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書:「社会福祉概論I」全社協出版部 参考書・参考資料:適宜指示または配布する。			
履修上の留意点・ルール			
①社会福祉系科目の基礎となる授業であるため、専門用語や基本的な理念について理解するよう努めること。 ②年金・医療・福祉・介護・福祉・雇用等の情報を収集・把握しておくこと。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。			